

北朝鮮の核破棄の見返りとしての中国の経済支援

漢和防務評論 20180806(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

米朝が直接交渉することによって、中国の弱い立場が顕在化しました。北朝鮮は、米国と中国を天秤にかけ、中国に対しては好きなように振舞っています。経済支援しないと、核は放棄できないよ、と。核放棄交渉が成功すれば、金正恩の功績となり、不成功であれば、中国が制裁違反で責められる、と。

本誌編集部

KDR は、最近、北朝鮮と中国の関係及び北朝鮮の核放棄が何時になるかについて、中国軍の戦略学者及び官方大学の政策研究者と意見交換を行った。

意見交換を行ったすべての軍及び大学の国際関係学者は次のように述べた：北朝鮮は、経済を発展させるため、経済改革を行わねばならない。朝鮮人民の生活改善への願望は極めて強い。北朝鮮は変わらねばならない！北朝鮮が変わることは、中国の戦略利益にもなる。北朝鮮が核を放棄することは中国及びすべての国家にとって有益である、と。

中国の軍人学者は次のように述べた：金正恩がこのような戦略転換を行った背景は次のとおりである：第一、北朝鮮は、核兵器、弾道ミサイルの開発に成功し、すでに戦略目的を達成した。この段階は終了した。しかしその代価は悲惨であった：未だかつてない経済制裁に直面した。北朝鮮は、変わらなければ、経済発展ができない、と。

またある軍の戦略学者は：北朝鮮の弾道ミサイル及び核兵器はすでに政治的には米国にとって脅威となっている。これ以上拡大する必要はない、と述べた。

”北朝鮮と国際社会が直面する米国史上初めての非理性的大統領は、もし平壤が引き続き米国を刺激するならば、北朝鮮を軍事攻撃する可能性が極めて高い、と述べた。

この点は本誌の判断とは異なる。

次に、やはり重要なことは次のとおり：北朝鮮の上級社会では、金正恩兄妹だけが西側社会の裕福な生活を知っている。したがって金正恩は、人民生活を改善しなければならない大きな圧力を感じている。政権を維持し、安定させるためには、経済改革を行わなければならない。

KDR が知り得た範囲では、北朝鮮では、たとえ党の政治局級の高級幹部の子弟であっても、資本主義国家に留学したものはいない。

したがって金正日の子供達だけが唯一スイスに留学したのである。

次に、非核化、核破棄問題について。

上述の消息筋は次のように述べた：中国は、正反対に北朝鮮に忠告したことが

ある。核破棄を急ぐべきでない！と。なぜなら米国の核破棄の目標及び定義と北朝鮮の核破棄の目標及び定義がはるかにかけ離れているからである。数回の交渉で合意させることはできない。この点について、北京、モスクワ、平壤の意見は一致した。3国は段階的な核破棄を支持したのである。

北京はこの問題で、他言できないような苦勞がある。

多くの中国学者は次のように述べている：金正恩は北京に対して頭を下げ服従する態度を採っている。彼は核破棄問題を交渉したがっており、北京とワシントンにボールを投げている。その代わりにの交換条件として、平壤は当然中国に経済制裁解除を要求している。そうしないと次の段階の経済改革に進めないからだ。

中国が段階的な核破棄に賛成し、北朝鮮の経済改革を支持した場合、国連の経済制裁決定との矛盾に如何に対応するのだろうか？中国は板挟みの状態にある。今後の核破棄交渉において、米朝の交渉が順調にゆけば、功績は金正恩のものになる。順調にゆかない場合、米国は中国の制裁違反を責め立てる。

したがって北朝鮮の核問題を巡って、中米関係は過去に比べさらに複雑になり、不安定要素が増すであろう。北朝鮮への輸出禁止がどの程度徹底されているか、中米間の意見の相違は今後残らず暴露されるであろう。

もし厳しい経済制裁が継続されると、中朝関係は動揺し、核破棄問題の主導権は米国が一方的に握ることになる。これは中国が避けたい状況である。

しかも文化交流面から見ると、中朝両国の最高指導者は個人的信頼関係を基本的に確立した。面子外交は、今後双方の上層階級の交流をさらに促すことになろう。

これでは厳しい制裁を継続できるだろうか？

中国は、北朝鮮の経済改革を確かに支持している。この点は高度に重視する必要がある。中国の全ての官方の学者、軍も含めて、また大学の学者もこのことを強調している。KDRはこれは本心だと思う。なぜか？

中国は、本当に北朝鮮の経済改革を支持しているのか？欧米及び日本の北朝鮮問題研究者の意見は大きく分かれている。

一つの認識は次の通り：金正日時代、中国は、表面上北朝鮮の経済改革を支持したが、実際は介入して妨害した。妨害はひどかった。その根本的な理由は次の通りである：1. 北朝鮮の経済力が強大になると核兵器、弾道ミサイルの開発が加速する。2. 経済開放後の北朝鮮は、西側国家及び韓国との経済的結びつきを強め、中国のコントロールが効かなくなる可能性がある。その典型的な例は：1990年代、金正日は、中国人楊斌を朝鮮経済特区の責任者に指定した。中国は楊斌を逮捕した。そしてこの改革は途中で廃止された。

ある朝鮮問題学者によると：当時金正日は経済改革を決心していたという。その改革のスピードは、鄧小平よりも大胆であった、と。責任者に外国人を選んだ理由は、特区内では独自の法律を制定することを許可したからである。

しかし今回の金正恩の経済改革に対しては、中国は予め支持すると中国の学者たちは言っている。その理由は次のとおりである：北朝鮮は、核兵器及びICBM

の開発をすでに終わっており、核破棄と経済改革を直接リンクさせている。もし中国が北朝鮮の経済改革を支持しないならば、中国は北朝鮮に核破棄を働きかけることができないのではないかと如何にすれば北朝鮮に影響力を行使し続けることが出来るか？1990年代、金正日の経済改革の初期、北朝鮮は核兵器、ICBMの存在を公表しなかった。時代背景が大きく変化したのである。

北朝鮮の経済改革を支持することは、金融投資、貿易等々の方面で、禁輸の姿勢が緩くなることを意味する。

このような状況下、ロシア、韓国の平壤に対する姿勢を見ると、変化し始めている。KDRは次のように見る：朝鮮半島の非核化、北朝鮮に対する外交問題を巡って、日米韓陣営に亀裂が始まっている、と。モスクワ、ソウル、北京の立場は、さらに接近する可能性がある。米国、日本は、非核化が正式に行われるまでは、強力な経済制裁を維持すべきことを引き続き強調している。緩めることはできない、と。

しかし前3国は、経済制裁に対する政策変更を、遅かれ早かれ行うことになるであろう。

中国の各方面の学者の判断は基本的に一致している。それは、今のところ”金正恩は自ら対米、対韓、対中国外交の主導権を掌握している。彼と彼の妹は全てのチャンスを握っている。若い聡明である”と。韓国の外交政策研究者もこのように述べている。

中国の一部の学者は：金正恩は理性的である。戦略方針の選択は、深思熟慮の結果である。しかも目的を達成した。トランプは気違いの真似をしているか、或いは本当の気違い大統領である。今後は、対北朝鮮政策においても、経済協力等々の問題においても、全く予測できない問題が米国側から中国へもたらされるであろう、と述べた。

以上